



FIRE POWER 2017 in FUJI

富士総合火力演習

H29年8月27日(日)

“日本を^{まもる}防衛力！”

今年も陸自の総力を上げ、教導団主導の下に演習部隊富士の裾野に結集！！

緊張高まる近隣情勢に
一段と熱のこもる総火演！

今年も「総火演」は公募の難関を突破した一般来場者と政府要人等VIPの見守る中で、参加部隊のそつない連携と正確な実射訓練、そして「島嶼防衛」を想定した模擬奪還作戦を公開して「安心・安全」の証を存分に魅せてくれました。まずは「総火演」を主導された「富士教導団」の皆さん方に、改めてここに慰労と感謝の言葉を送らせて頂きます。

さて、災害派遣を機に燃え上がった自衛隊人気は、TVやネットの影響もあつて依然衰え知らずです。お陰で「総火演」に至っては全国的にその知名度は広まり、僅か2時間余りの演習に、応募総数凡そ16万、毎回競争倍率2.9倍と云う膨大な数に膨れ上がって、社会現象を巻き起こしています。

この日も「総火演」の終了数時間後にはTV各局一斉に報道番組で取り上げ、広大な会場を埋め尽くした観覧席の熱気や、実弾の乱れ飛ぶ実射シーンをセンセーショナルに報じていましたが、好意的に見れば、マスコミの自衛隊ウォッチは、世論の関心度や支持率アップに繋がる広報的役割を果たしてくる一方、「総火演」では、どうやら公募を更に煽る火付け役になってしまっているようです。今年から「総火演」は、ネット

のみのより狭き限定公募に成ってしまいました。それでも回を重ねる毎に応募数は増え続けているので、中からは有難いもの。ところが、中にはマスコミ報道に誘発されて「総火演」を単なるイベント感覚で捉え、「時流に遅れるな！」とばかりに、興味本意で応募に加わる人もいれば、国内最大を謳う実弾射撃の醍醐味を体感したいと云うサバイバーや、熱狂的武器マニアもいて、熾烈な公募争いに一層拍車掛けているとの不満も少なくはないようです。

本来「総火演」とは、火力演習の実態とその成果を広く国民に公開し、理解を深めてもらうと云う趣旨の下に始められた、デモンストレーションなのです。

今や自衛隊は、少数精鋭ながら、災害や安全保障上もつとも必要不可欠な存在です。

次代を担う若者達には是非来年の「総火演」にチャレンジして頂き、一度はその趣旨と真髄を実体験して見てほしいものです。

そして、復興以来のテーマ「安全保障」について正面から向き合い、我々国民の「安心・安全」とは何か、誰にどう託し、どう対応していくべきかを、自身の将来と兼ね合せ、じっくり検討してもらえれば幸いです。

ところで、「総火演」終了3日後に成り誓いたJアラートは想定内の事だったのでしょいか・・・私には、毎年「創立記念式典」

